

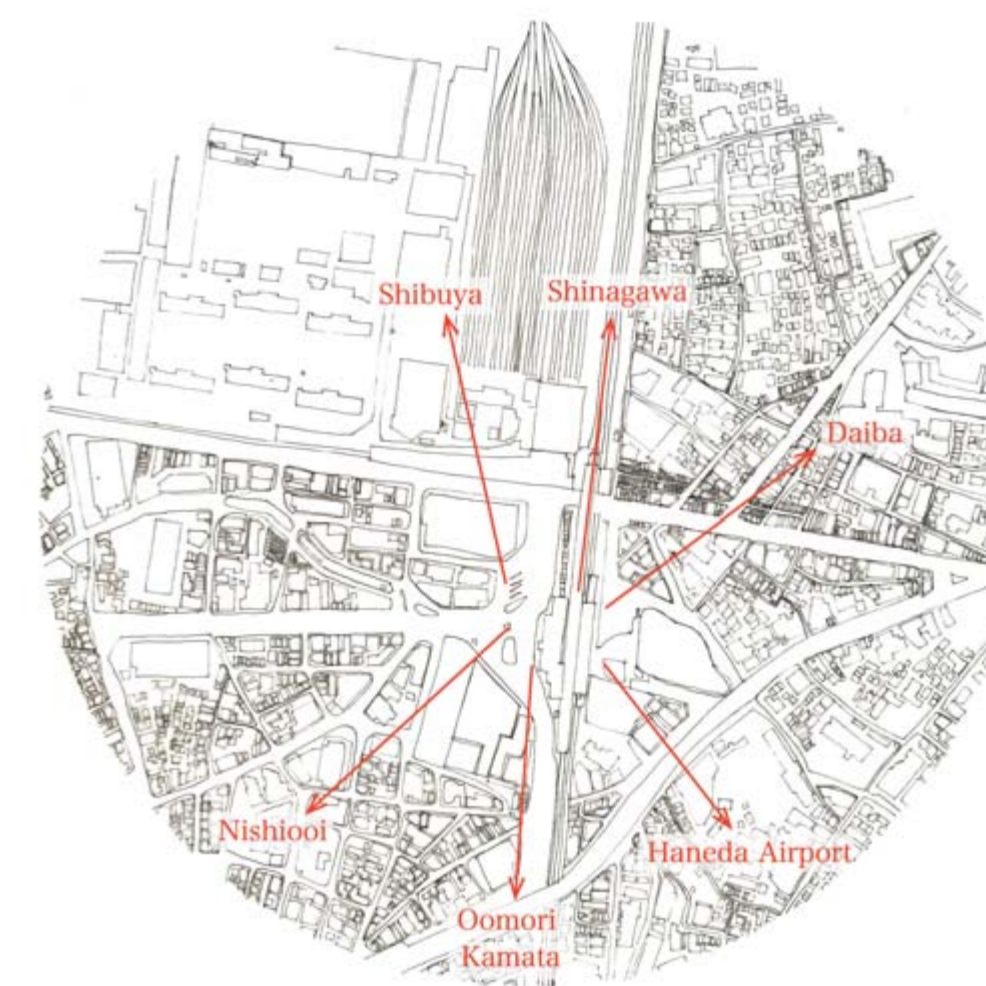
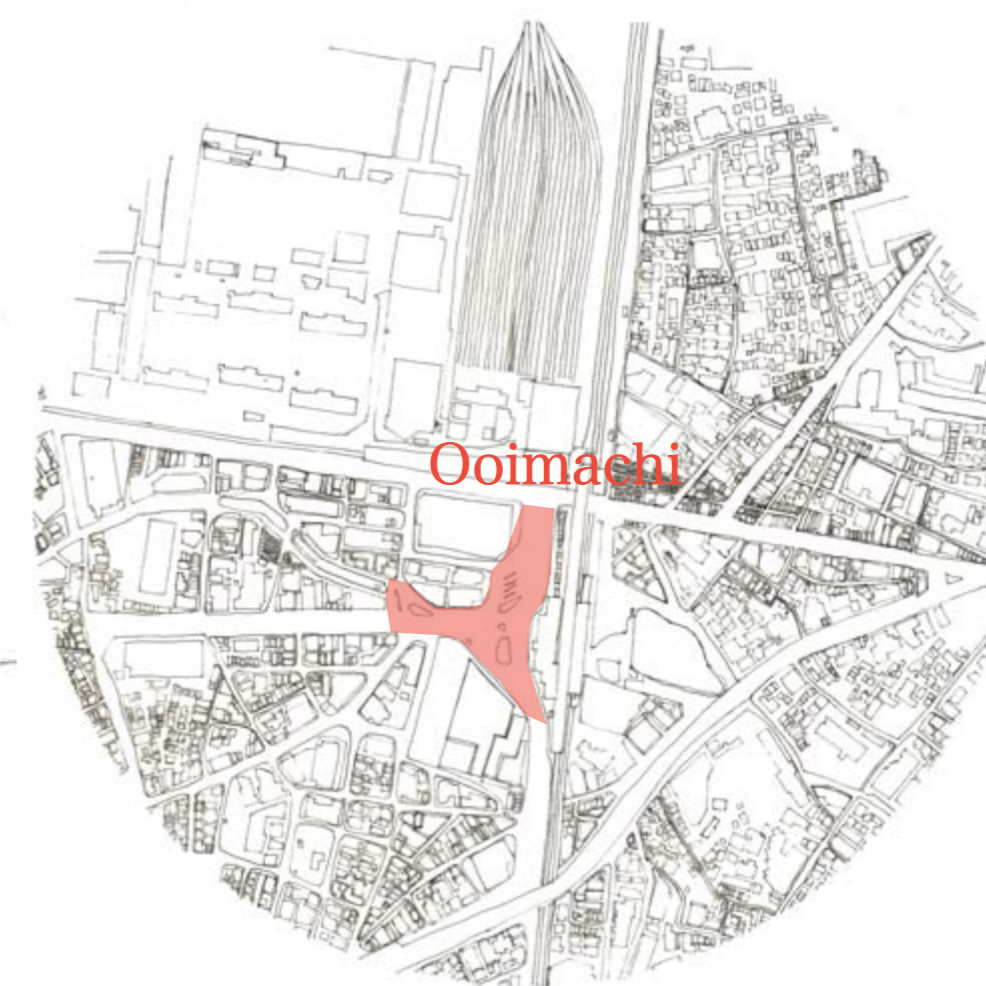
道の街図

様々な所への接点である駅前を、ここと他を繋ぐ場所・人の交差点として変え、賑わいを街の他の場所に広げる地図としての駅前のあり方を考える。

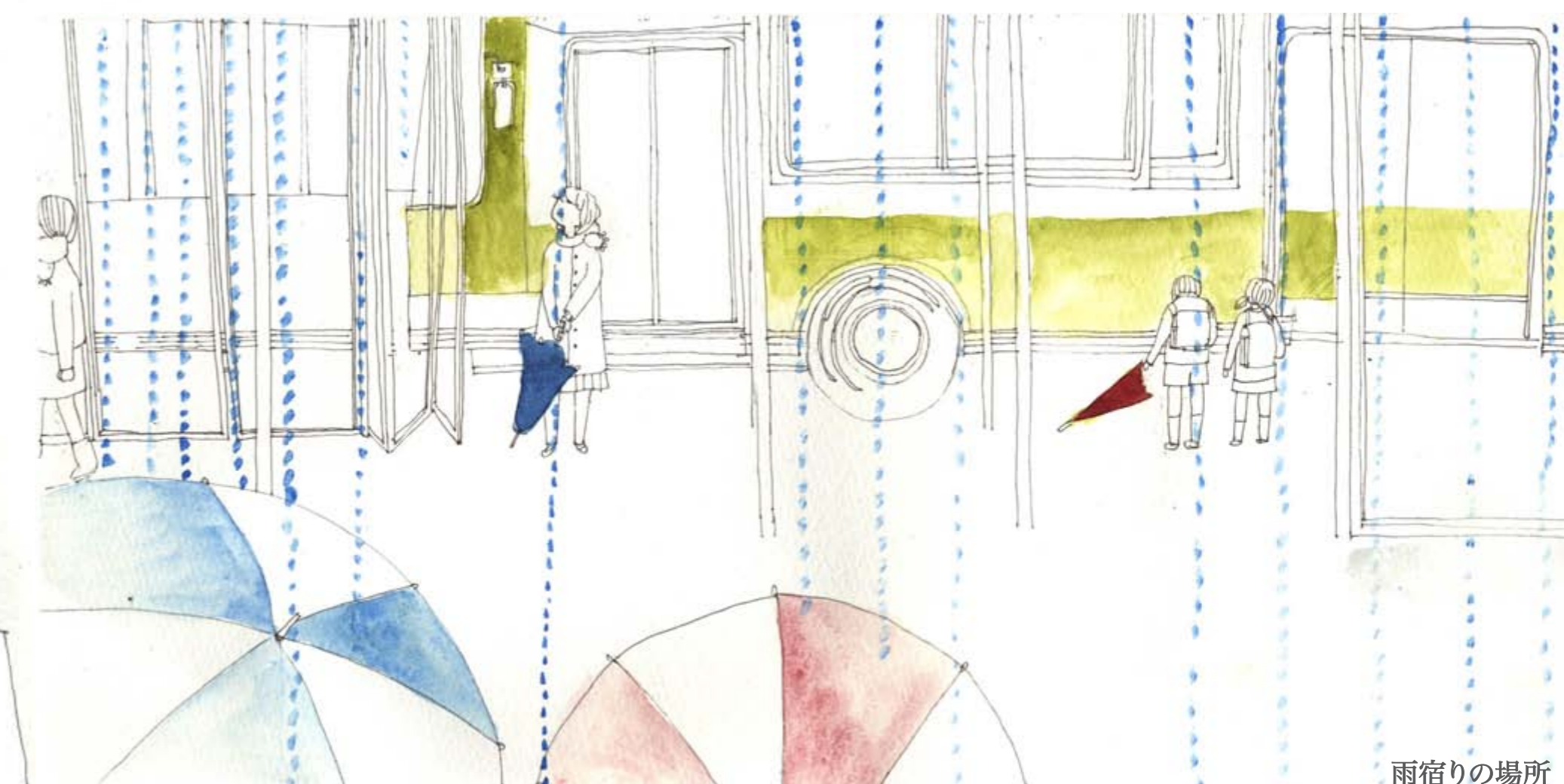
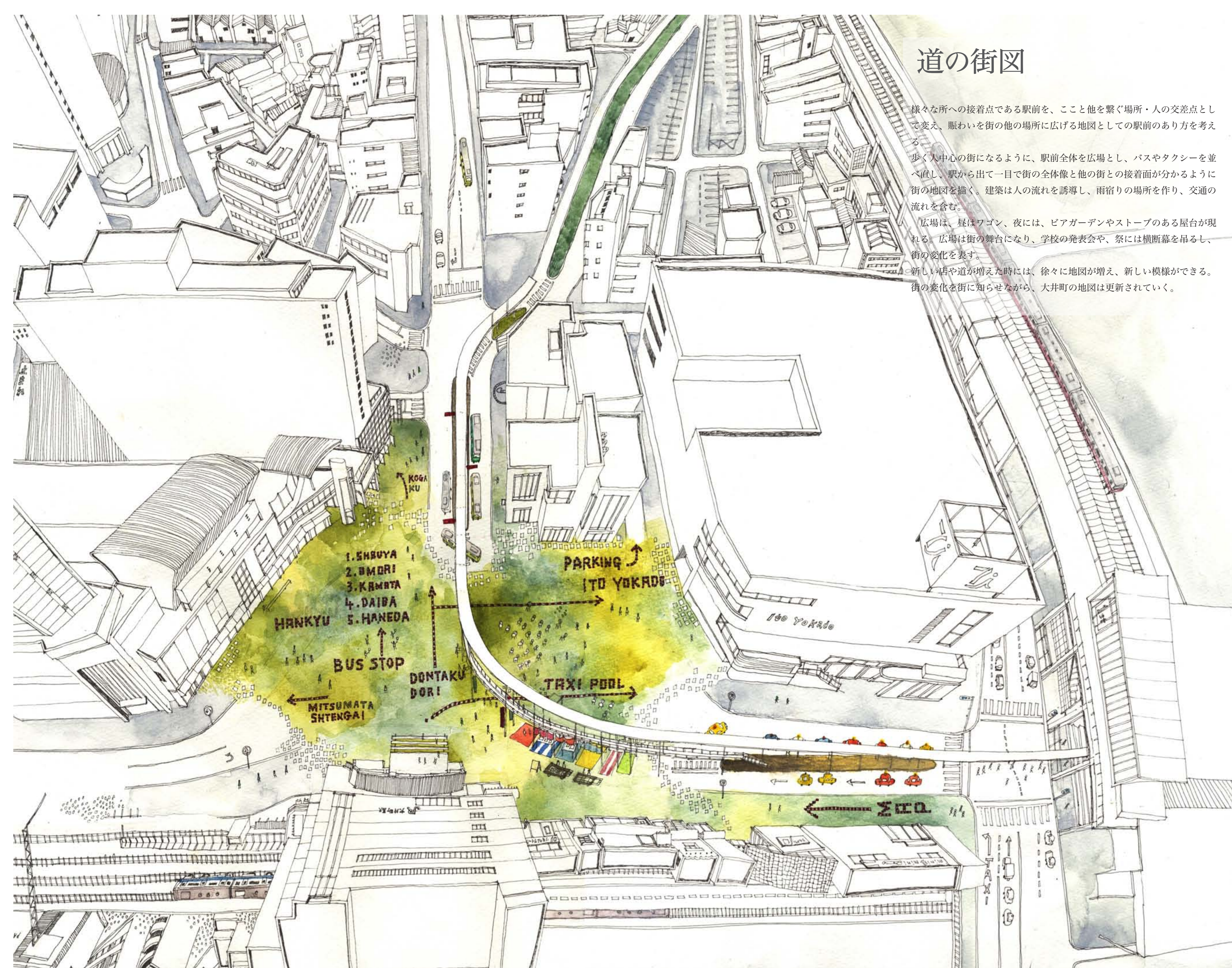
歩く人中心の街になるように、駅前全体を広場とし、バスやタクシーを並べ直し、駅から出て一目で街の全体像と他の街との接着面が分かるように街の地図を描く。建築は人の流れを誘導し、雨宿りの場所を作り、交通の流れを含む。

広場は、昼はワゴン、夜には、ビアガーデンやストーブのある屋台が現れる。広場は街の舞台になり、学校の発表会や、祭には横断幕を吊るし、街の変化を表す。

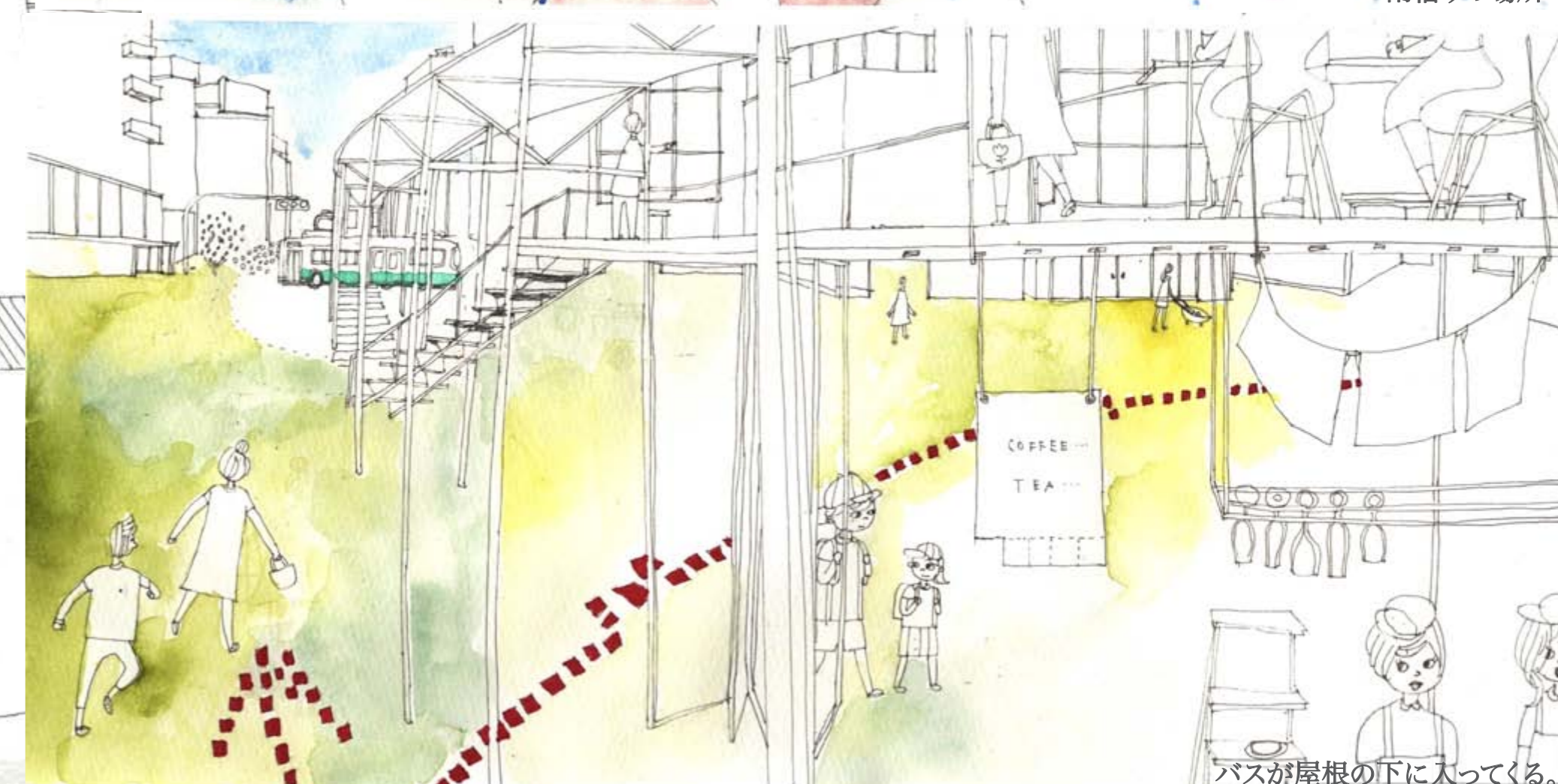
新しい店や道が増えた時には、徐々に地図が増え、新しい模様ができる。街の変化を街に知らせながら、大井町の地図は更新されていく。



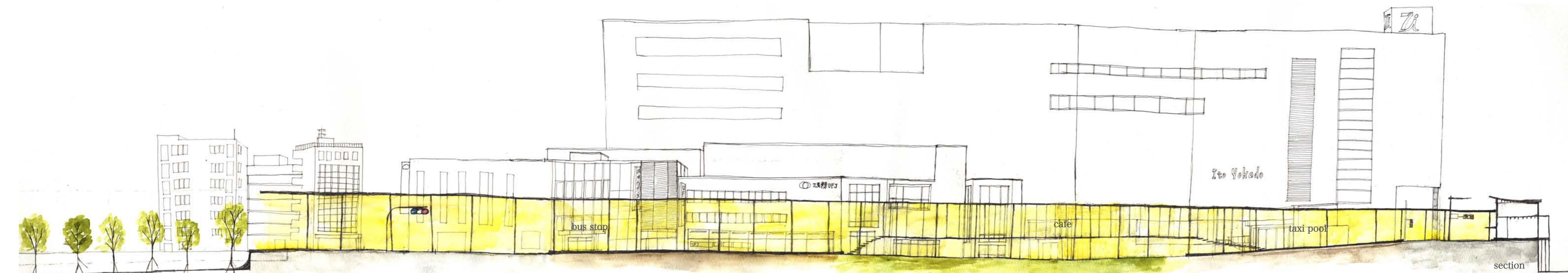
大井町駅は、電車やバスを通して様々な場所に繋がる接点である。



雨宿りの場所



バスが屋根の下に入ってくる。



～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提案要旨説明書

■作品タイトル

道の街図

■提案要旨

大井町駅

大井町駅は、電車やバスを通して様々な場所に繋がる接合点である。
この駅前を、この場所と他の場所を繋ぐ場所・人の交差点として変えることで、人の賑わいを街の他の場所に導き、広げるような地図としての駅前のあり方を考える。

車のための駅前から人のための駅前に

現在のように、駅から来た人々が駅ビル内で完結してしまうのではなく、接合点としてそこから街中に拡散していくような人の流れを生み出す。そのために駅前全体を広場として考えながら、今あるロータリーのバスやタクシーの乗り場を並べ直す。そこに元からあるものを結ぶことで、車中心の街ではなく、歩く人中心の街にする。

街の地図

今の鉄道駅から町への入り口は、両方とも小高いところにあるので、駅から出たときに一目で街の全体像と他の街との接合面・街の構成が分かるように街の地図を広場に描く。

建築のつくりかた

全体を広場にし、それが地図になるように目印を配置する。
その上にある建築は、人の流れを誘導し、雨宿りの場所を作り、内側にバスやタクシーなど様々な交通の流れをはらんでいる。また、屋根の下にはキャットウォークがあり、カフェとしてバスを待つ人たちの居場所となる。
そして屋根面を一直線にすることで、大井町がもつ緩やかな勾配の変化を建築の内側に引き込む。

大井町に流れている時間

小学生の朝の通学、お昼ご飯を食べに来るオフィスの人たち、夕方の帰ってきた人たちや夕飯のための買い物客、夜に飲みに行くサラリーマンなど、ここを利用する人々の時間もこの場所を形作る。
広場は、朝はそこを接合点として人や車が拡散し、昼にはワゴンがやってきてお昼ご飯を楽しむ場所になる。夕方には学校から帰ってきた子供たちの遊び場として、夕飯の支度をするお母さんたちは阪急やイトーヨーカドーへの通り道としてこの場所へやって来る。夜には仕事帰りのサラリーマンたちが屋台でお酒を楽しみ、夏にはビアガーデンが広場に現れる。冬にはストーブが置かれた小さな屋台が建築に沿ってポツポツと並ぶ。
広場は街の中の舞台になり、近くの小学校のイベントが行われたり、どんたく祭のときには、横断幕を吊るすなど、街の変化を常に表現する場所となる。
大井町から他の街へ、という大きい人の流れを考えつつ、その街に住む人たちの小さい流れを捕まえる。

「道の間地図」は、新しいお店や道が増えて行ったときには、少しずつ地図が増えていき、新しい模様ができる。街の変化を街に知らせながら、大井町の地図は更新されていく。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。